



九州に係る経済・社会情勢及び観光の状況について

九州運輸局企画観光部

平成25年3月21日

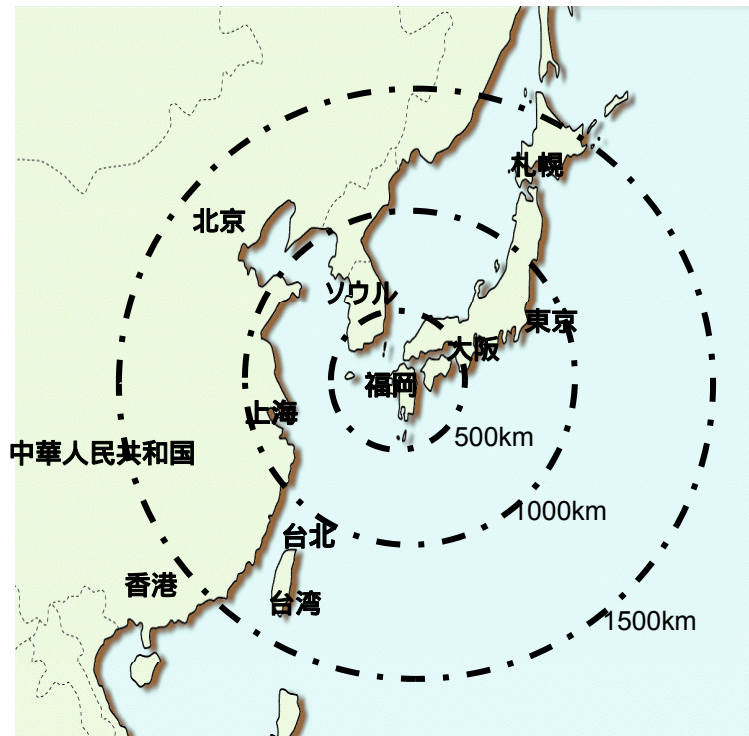
目 次

1 . 概要	
・九州の位置づけと九州圏の特徴	1
・本格的な人口減少・少子高齢化の進行	2
・九州各県における転入・転出の状況	3
・九州に多く存在する離島地域・過疎地域	4
2 . 交通	
・県別自家用乗用車普及状況	5
・九州の輸送機関別旅客輸送人員シェアの推移	6
・九州の輸送機関別旅客輸送人員の推移	7
・九州の主な国際航空路・航路	8
・国際航路の現状	9
・九州へのLCC就航の動き	10
3 . 観光	
・訪日外国人3,000万人へのロードマップ	11
・外国人入国者の国・地域別の割合(平成23年)	12
・九州の外国人入国者数の推移	13
・九州の外国人入国者数の推移(韓国・中国・台湾・香港)	14
・九州における延べ宿泊者数(平成24年4月～12月)	15
・九州における外国人延べ宿泊者数(平成24年4月～12月)	16
・旅行者一人当たりの平均宿泊者数	17
・居住地別延べ宿泊者数(平成23年)	18
・「九州オルレ」について	19
・「九州オルレ」コースMAP	20
・九州における観光圏	21
・阿蘇くじゅう観光圏	22

九州の位置づけと九州圏の特徴

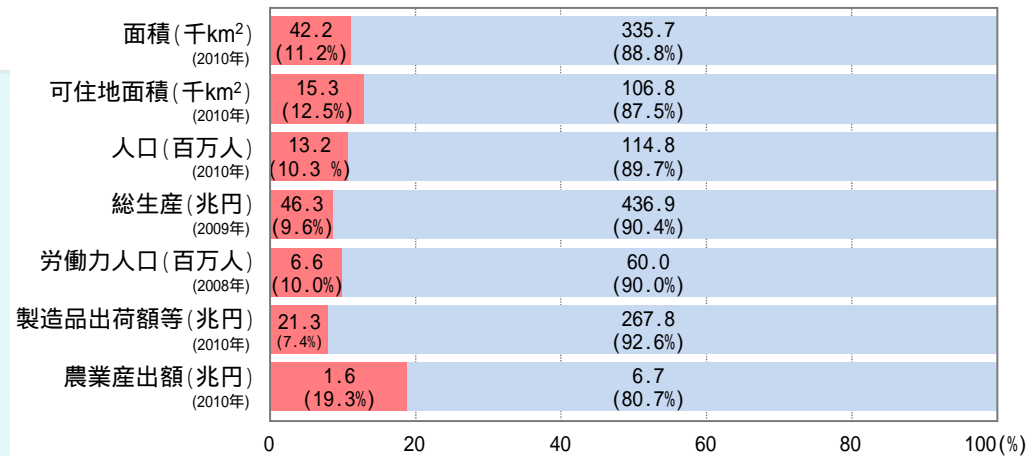
- ・九州圏は、首都東京まで約1,000km離れている一方で、海峡を隔てて朝鮮半島に近接し、東京とほぼ同距離に上海があるなど我が国で東アジアに最も近い圏域に位置づけられる。
- ・人口約1,320万人、域内総生産約46兆円と欧州の中規模諸国と同程度の人口・経済規模を有する。
- ・全国比で面積の約11%、可住地面積の約13%、人口の約10%、総生産の約9%と、我が国の約1割を占める。

東アジアにおける福岡の位置

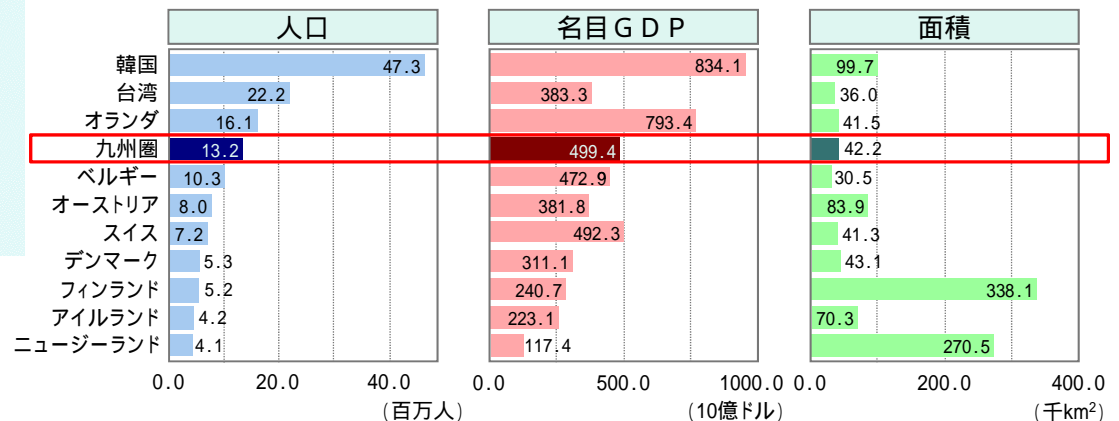


出典)九州運輸局作成

<九州圏の全国に占める割合>



出典) 面積、人口：国勢調査 2010 (総務省) 可住地面積：社会生活統計指標 2012 (総務省)
 総生産：県民経済計算 2009 (内閣府) 労働力人口：労働力調査 2008 (総務省)
 製造品出荷額等：工業統計表 2010 (経済産業省) 農業産出額：生産農業所得統計 2010農林水産省)

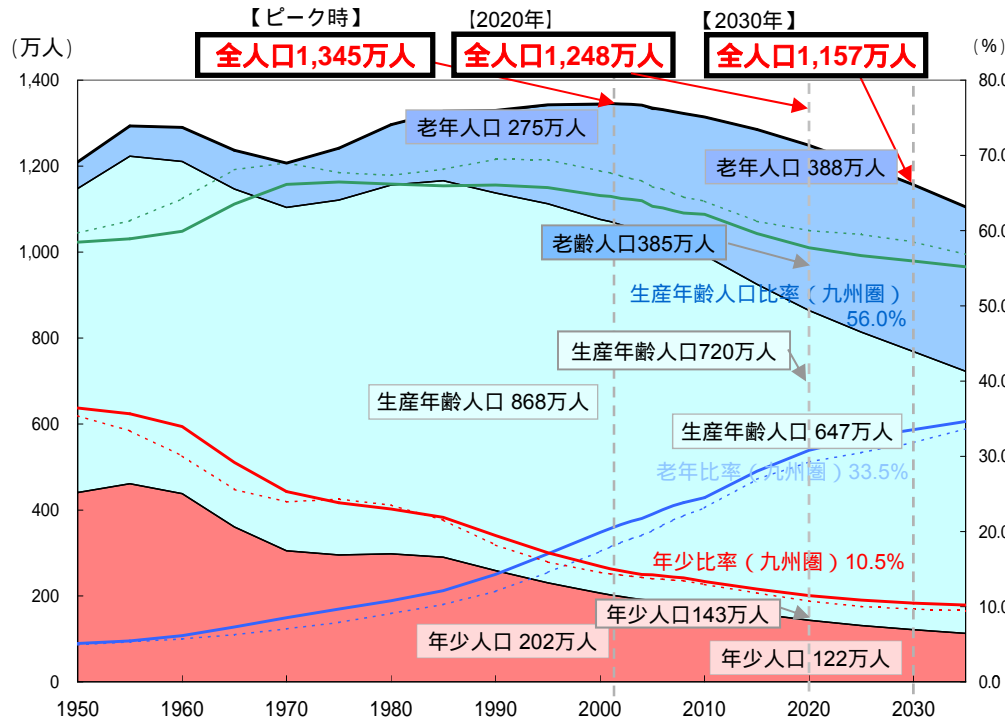


出典) 九州圏の人口、面積：国勢調査 2010 (総務省)、九州圏の名目GDP：県民経済計算 2009 (内閣府)
 外国の人口、面積、名目GDP：世界の統計 2009 (総務省)
 九州の面積・人口は2010年の値、九州のGDPは2009年の値、外国のGDPは2009年、面積は2006年の値
 台湾・スイス・フィンランドの人口は2000年、ベルギー・オーストリア・デンマークの人口は2001年、
 オランダの人口は2002年、韓国の人口は2005年、アイルランド・ニュージーランドの人口は2006年の値

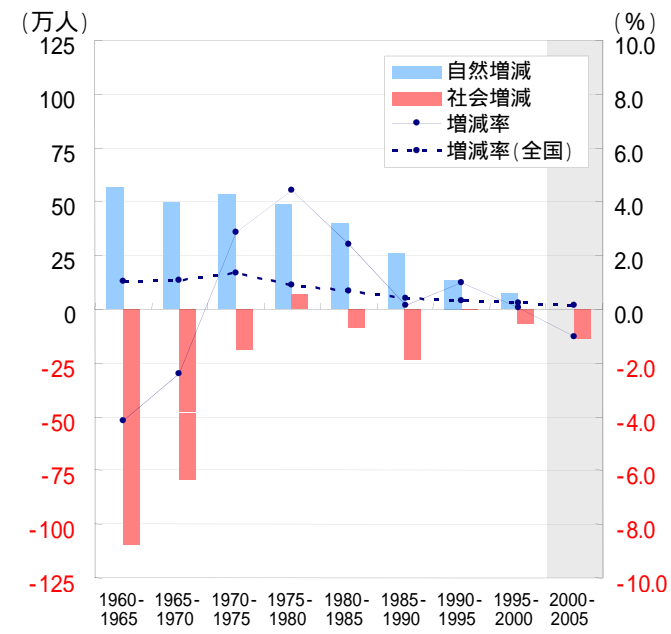
本格的な人口減少・少子高齢化の進行

- ・九州圏の総人口は、2001年の約1,345万人から減少局面に入り、2030年には約1,157万人まで減少すると推計されている。
- ・総人口に占める高齢者の割合は、2005年の約22%程度から2030年には約34%まで上昇すると推計されている。
- ・九州圏における人口の自然増減は、2003年にマイナスに転じている。

<九州圏における将来人口・年齢人口の推移と推計>



<九州圏における人口自然増減・社会増減の推移>



65歳以上(老年人口)	65歳以上(老年人口)比率(九州圏)
15~64歳(生産年齢人口)	65歳以上(老年人口)比率(全国)
0~14歳(年少人口)	15~64歳(生産年齢人口)比率(九州圏)
全人口	15~64歳(生産年齢人口)比率(全国)
	0~14歳(年少人口)比率(九州圏)
	0~14歳(年少人口)比率(全国)

参考 2010年人口

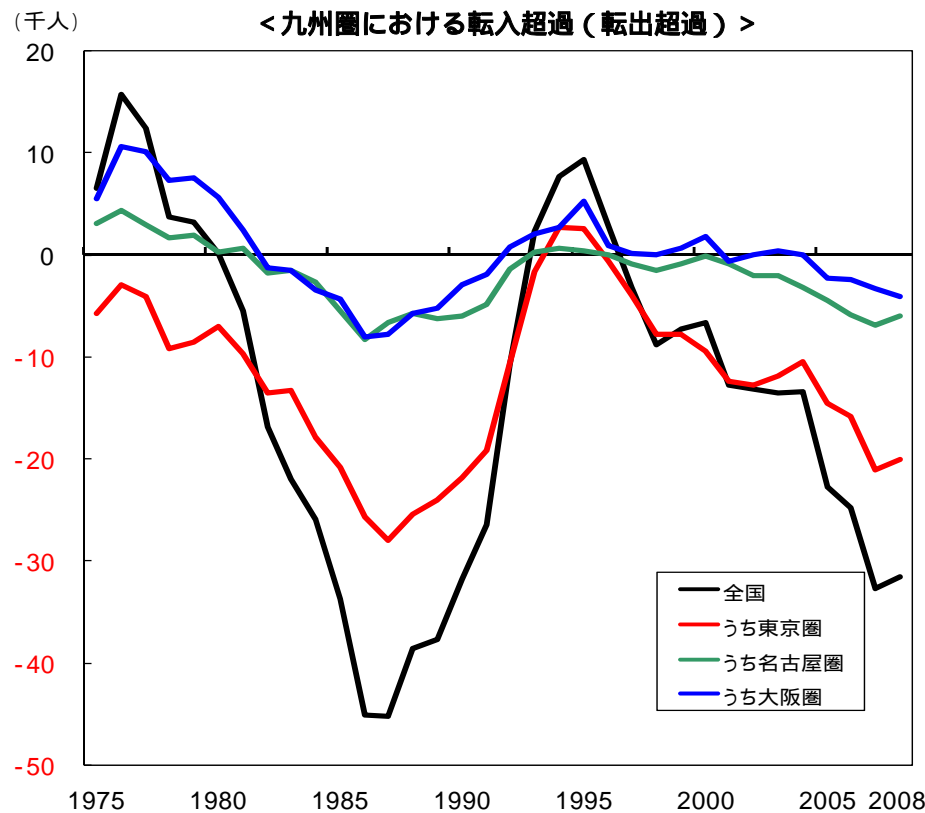
福岡県	507万人
佐賀県	85万人
長崎県	143万人
熊本県	182万人
大分県	120万人
宮崎県	114万人
鹿児島県	171万人

出典)九州圏広域地方計画協議会資料

出典)2010国勢調査(統計局HP)

九州各県における転入・転出の状況

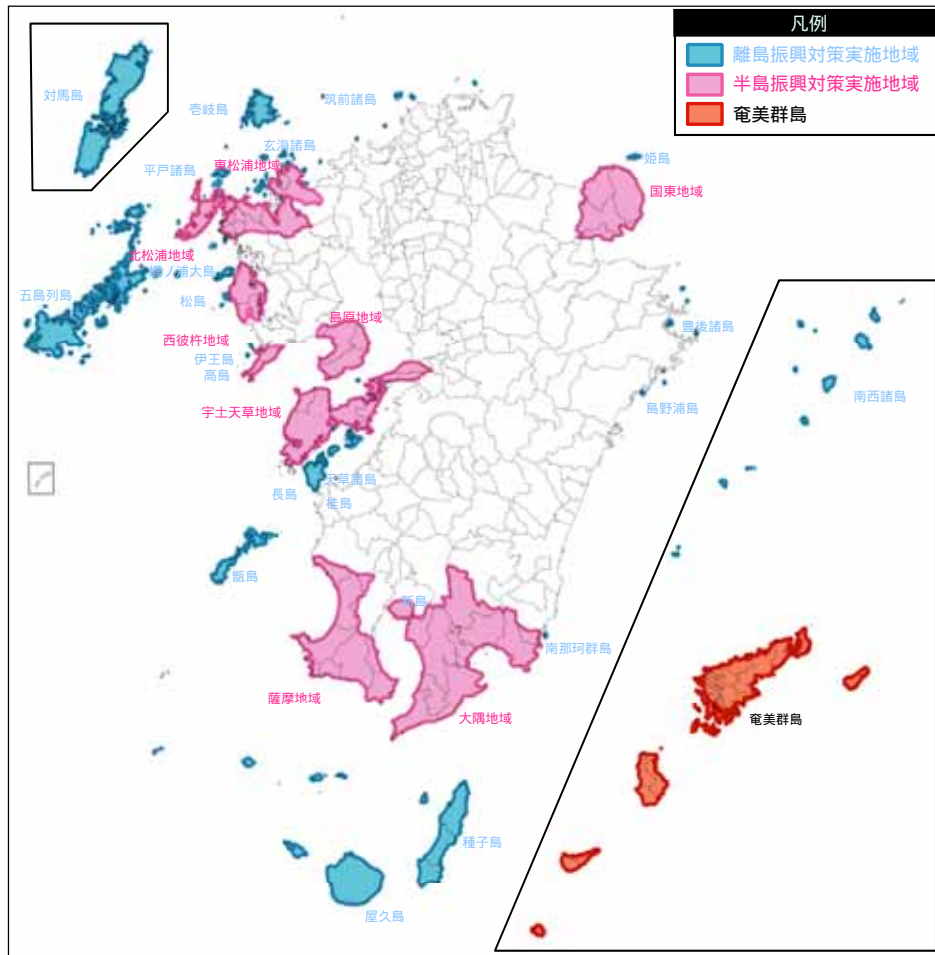
- ・九州圏における転入(転出)の状況は、1993年から転入超過に転じて、東京圏への一極集中に是正がみられたものの、1997年以降は、対東京圏を中心として転出超過となり、近年では拡大する傾向にある。
- ・九州圏内における県別の転入(転出)状況は、九州各県から福岡県への転出超過がみられ、福岡県に人口が集中する傾向にある。



九州に多く存在する離島地域・過疎地域

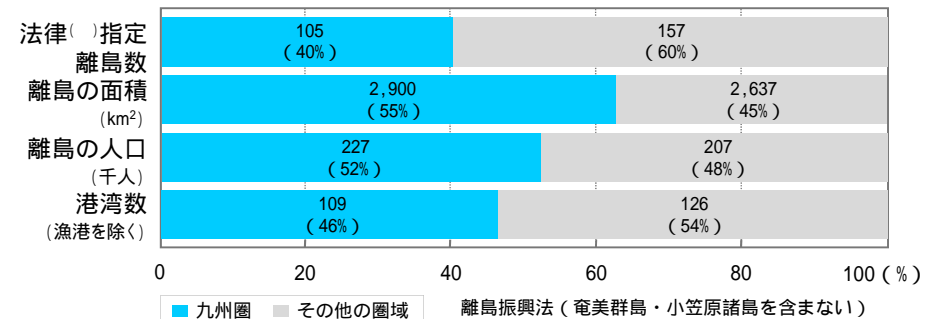
- ・九州圏は、離島・半島の割合が多く、離島振興対策実施地域でみると、全国比で離島数の約40%、面積の約55%、人口の約52%を占める。
- ・九州圏の半島は、半島振興対策実施地域でみると、全国23箇所のうち8箇所(約35%)が指定されている。
- ・九州圏の国境・外洋離島は、面積約4,006km²を有し、九州圏における全離島数の約6割、人口の約9割を占める。

<九州圏における離島振興対策実施地域等の分布状況>

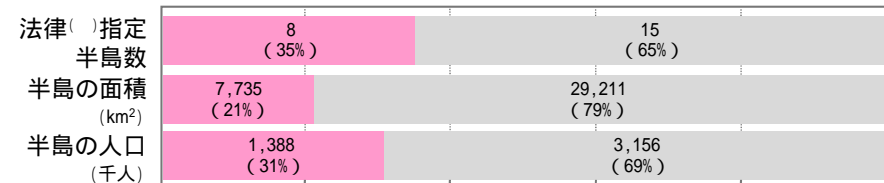


離島振興対策実施地域: 離島振興法に基づき指定された離島振興対策実施地域(九州圏では22地域指定)
 半島振興対策実施地域: 半島振興法に基づき指定された半島振興対策実施地域(九州圏では8地域指定)
 奄美群島: 奄美群島振興開発特別措置法に規定する奄美群島

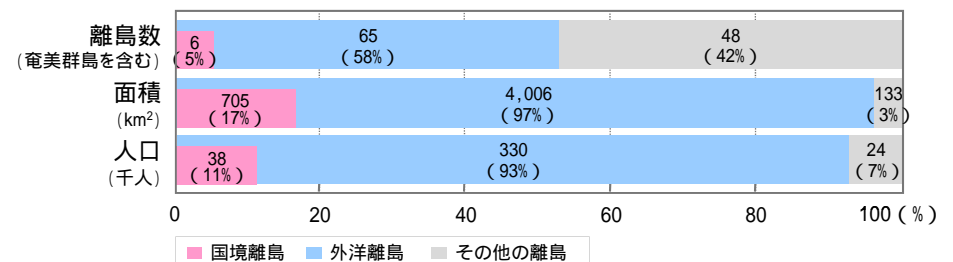
<九州圏の全国に占める離島の割合>



<九州圏の全国に占める半島の割合>



<九州圏の離島(奄美群島を含む)における国境・外洋離島の割合>

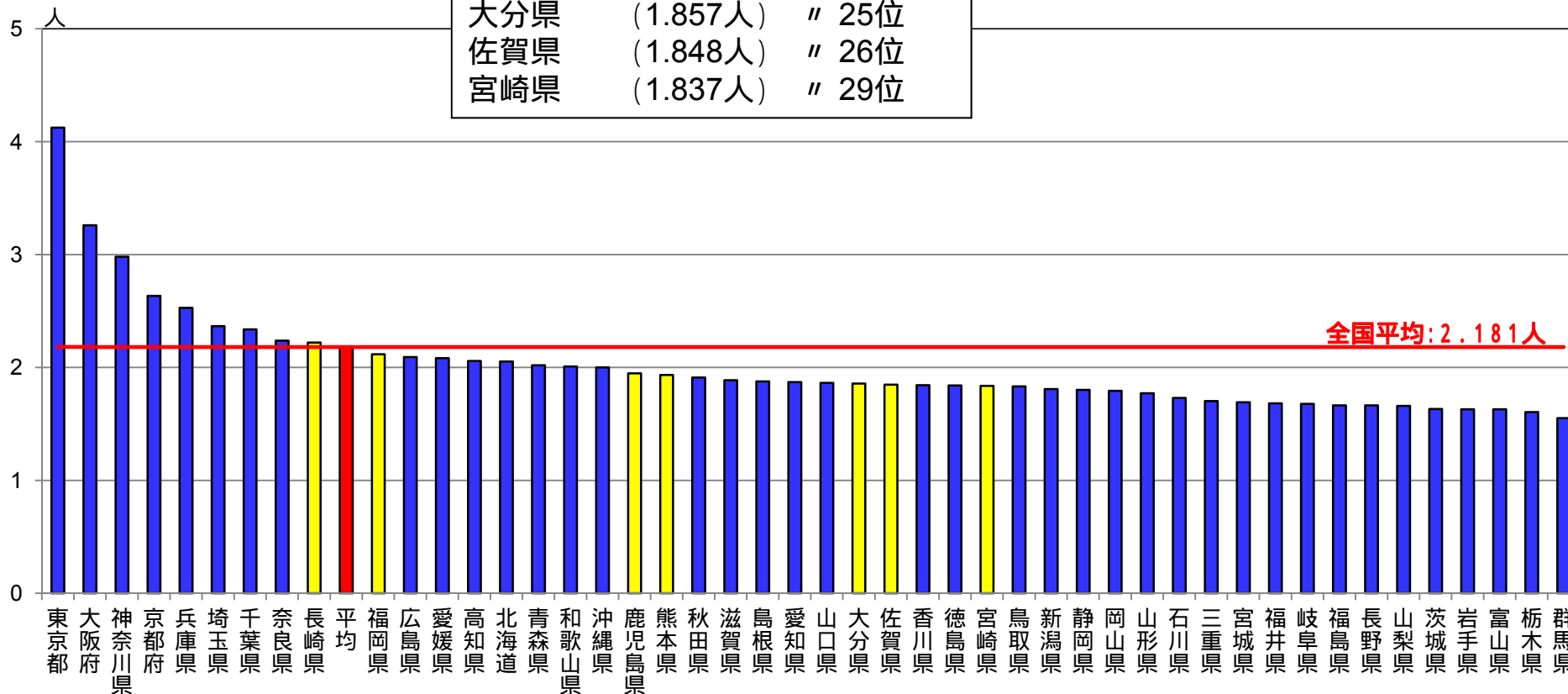


出典)九州圏広域地方計画協議会資料

県別自家用乗用車普及状況(平成23年度末)

・自家用乗用車(軽自動車を含む)一台あたり人口は、全国平均2.18人に対し、宮崎県1.84人、佐賀県1.85人、大分県1.86人となっており、全国に比べ、一台あたり人口が少ない。

長崎県	(2.221人)	全国9位
福岡県	(2.117人)	" 10位
鹿児島県	(1.948人)	" 18位
熊本県	(1.934人)	" 19位
大分県	(1.857人)	" 25位
佐賀県	(1.848人)	" 26位
宮崎県	(1.837人)	" 29位



出典) (一社)日本自動車会議所:数字でみる自動車2012より (東日本大震災の影響から、岩手、宮城、福島の22市町村の人口が含まれていない)

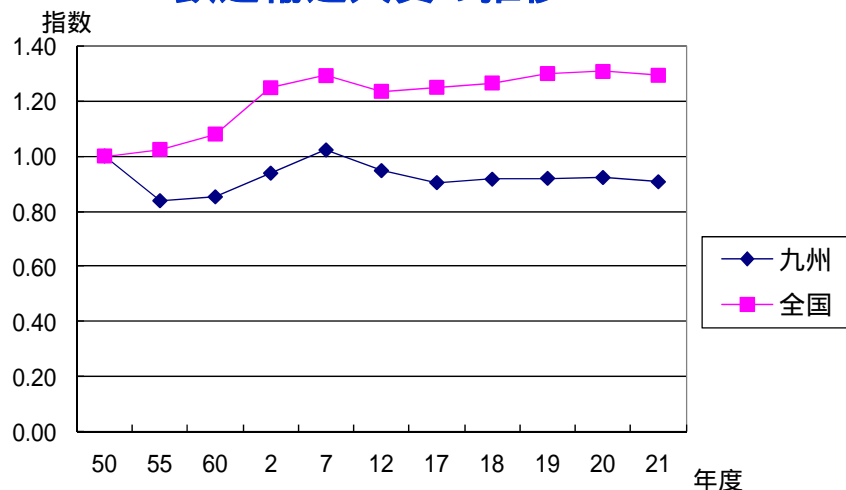
九州の輸送機関別旅客輸送人員シェアの推移



出典)九州運輸要覧

九州の輸送機関別旅客輸送人員の推移 (S50を1とした場合)

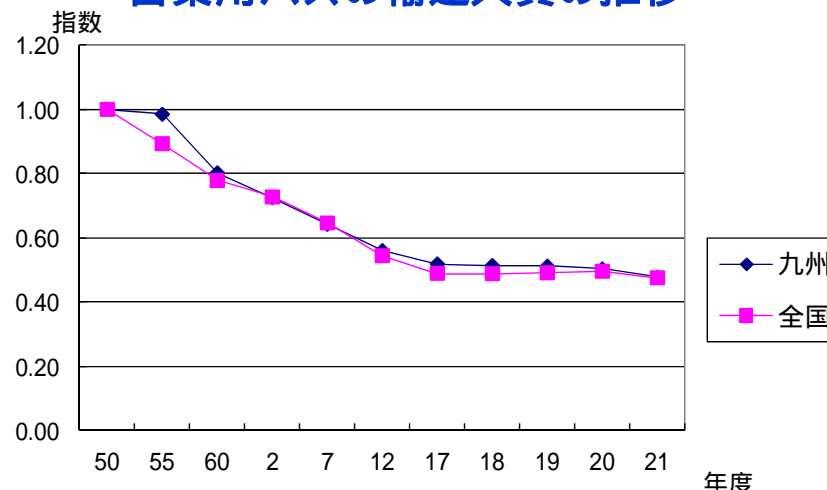
鉄道輸送人員の推移



単位: 百万人

	50	55	60	2	7	12	17	18	19	20	21
九州	642	538	547	602	656	608	580	588	590	592	582
全国	17,588	18,005	18,989	21,939	22,708	21,705	21,963	22,243	22,841	22,976	22,725

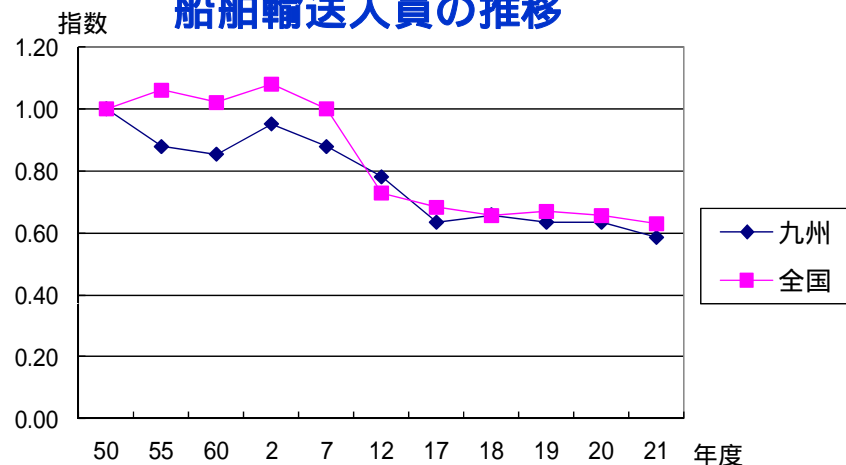
営業用バスの輸送人員の推移



単位: 百万人

	50	55	60	2	7	12	17	18	19	20	21
九州	1,053	1,037	845	763	676	590	546	541	539	530	502
全国	9,293	8,300	7,230	6,756	6,005	5,058	4,546	4,538	4,560	4,607	4,417

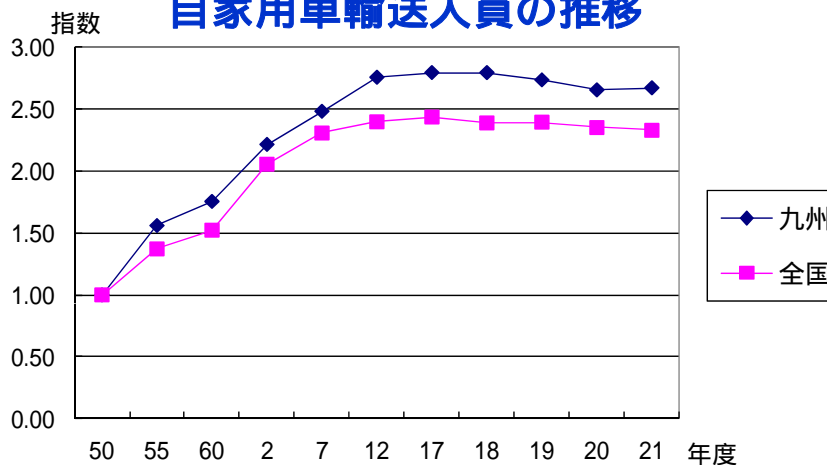
船舶輸送人員の推移



単位: 百万人

	50	55	60	2	7	12	17	18	19	20	21
九州	41	36	35	39	36	32	26	27	26	26	24
全国	151	160	154	163	151	110	103	99	101	99	95

自家用車輸送人員の推移



単位: 百万人

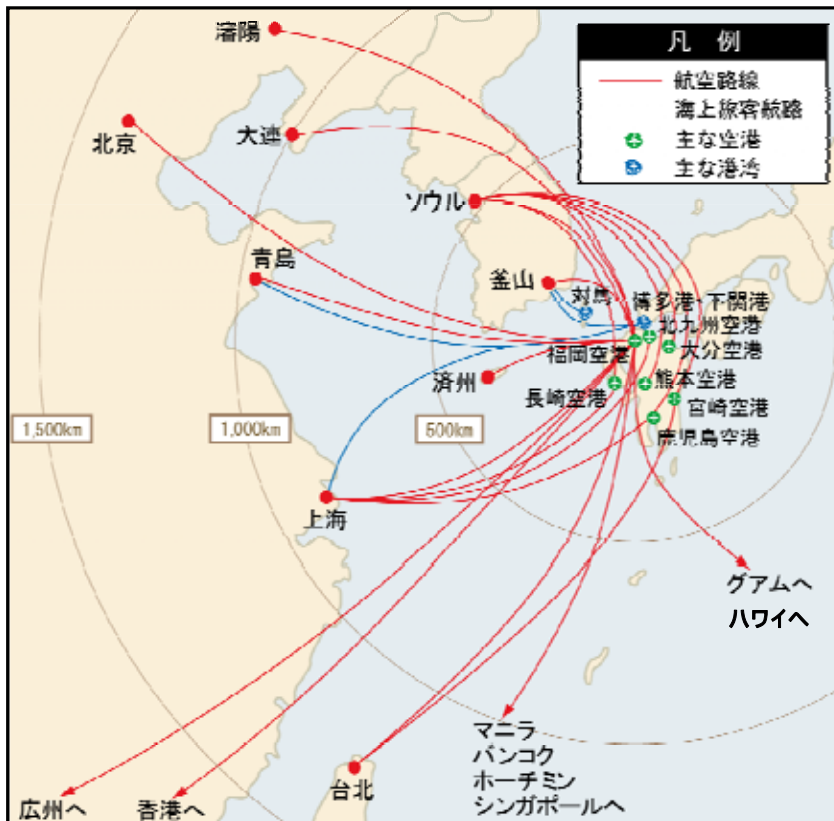
	50	55	60	2	7	12	17	18	19	20	21
九州	1,521	2,371	2,667	3,366	3,772	4,189	4,247	4,246	4,157	4,034	4,060
全国	15,899	21,791	24,192	32,649	36,632	38,082	38,701	37,942	38,028	37,347	36,982

出典)九州運輸要覧

九州の主な国際航空路・航路

・アジアとの活発な交流を背景として、九州圏における国際旅客の需要動向は着実に増大していたが、2008年後半のリーマンショック等で減少。2010年で回復したものの2011年の東日本大震災の影響で47.3万人まで減少。

国際航空路線及び外国航路

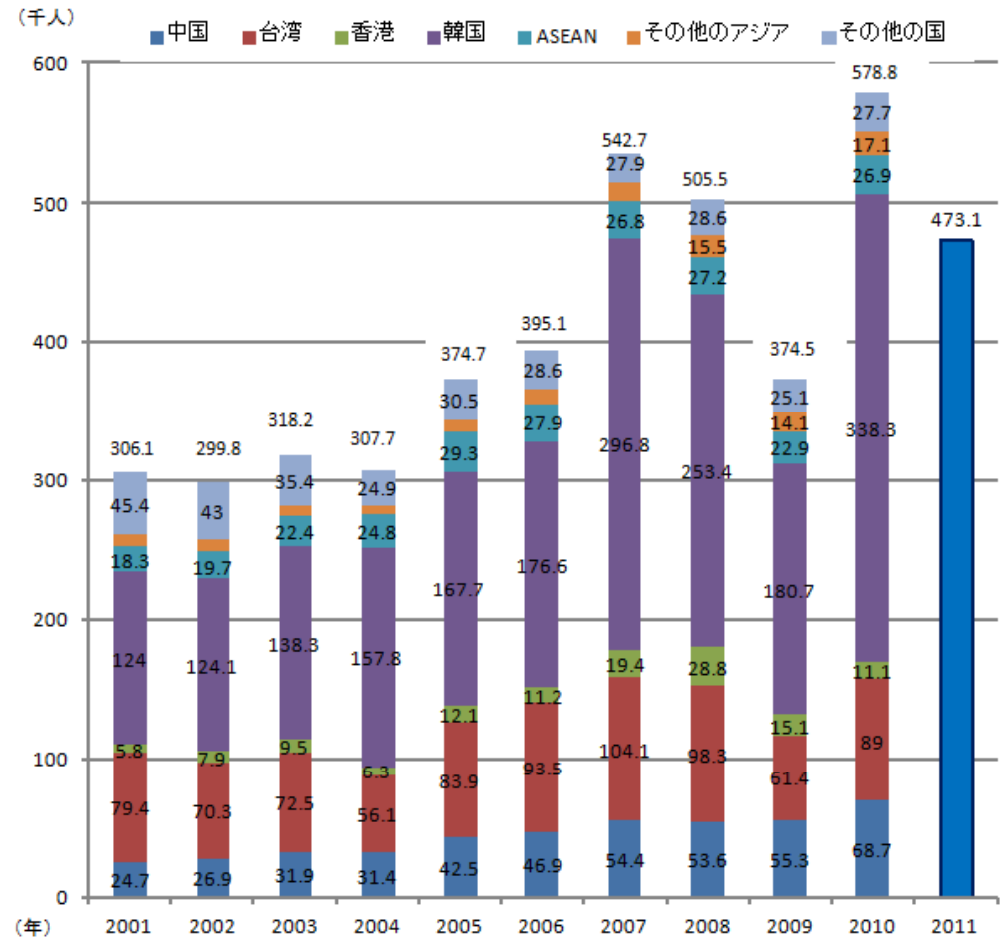


【ジェットfoil（博多港）】



博多港 - 釜山港間では、日5～8便の高速艇が就航しており、両都市間を2時間55分で結んでいる。

国際空港外国人入国者数



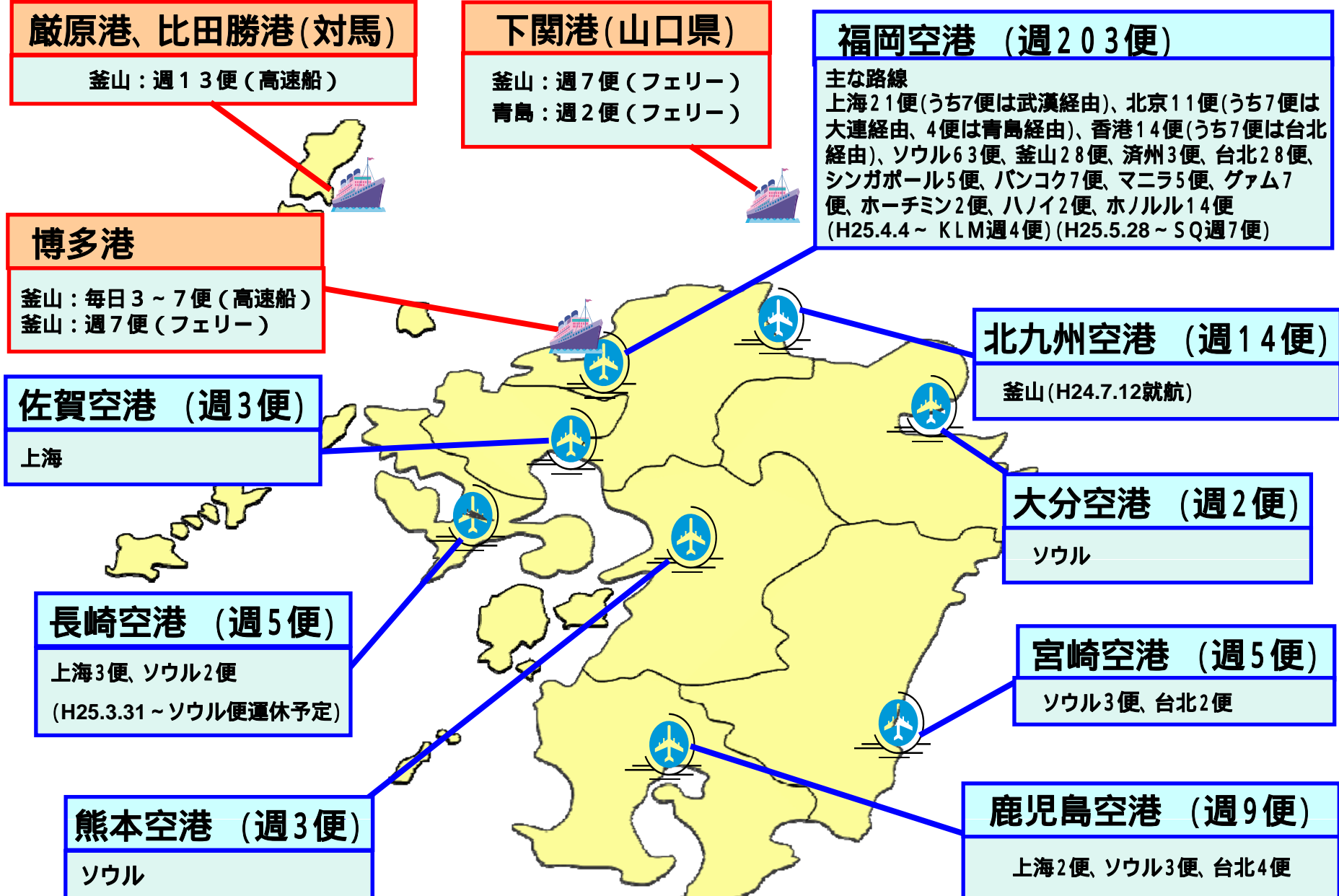
出典)「平成23年度九州圏広域地方計画の推進状況について」九州圏広域地方計画協議会

※「出入国管理統計年報」法務省

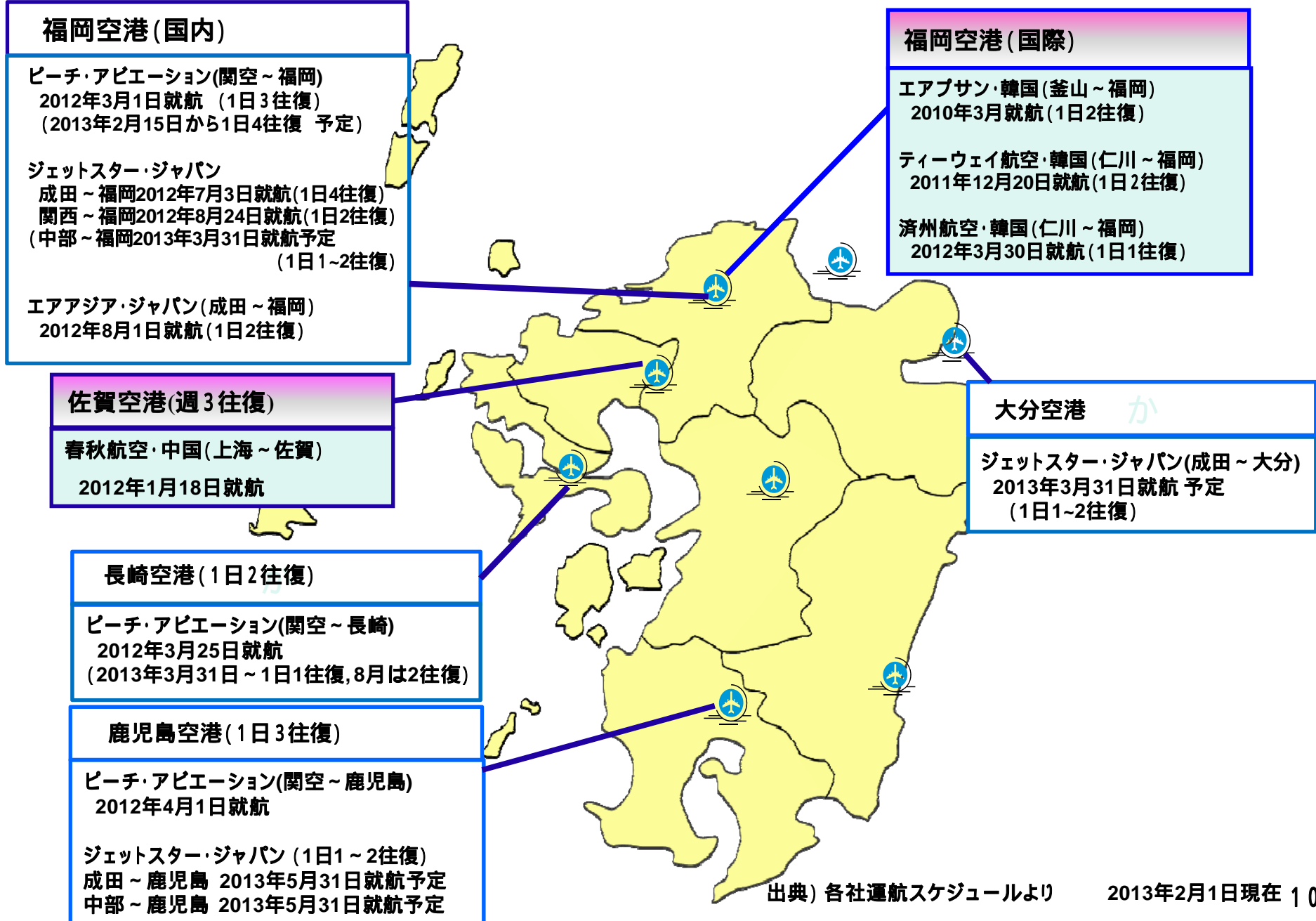
※九州圏内の空港別外国人入国者数を集計

※2011年は月別推移を合計した速報値であり、国内別は不明

国際航路の現状

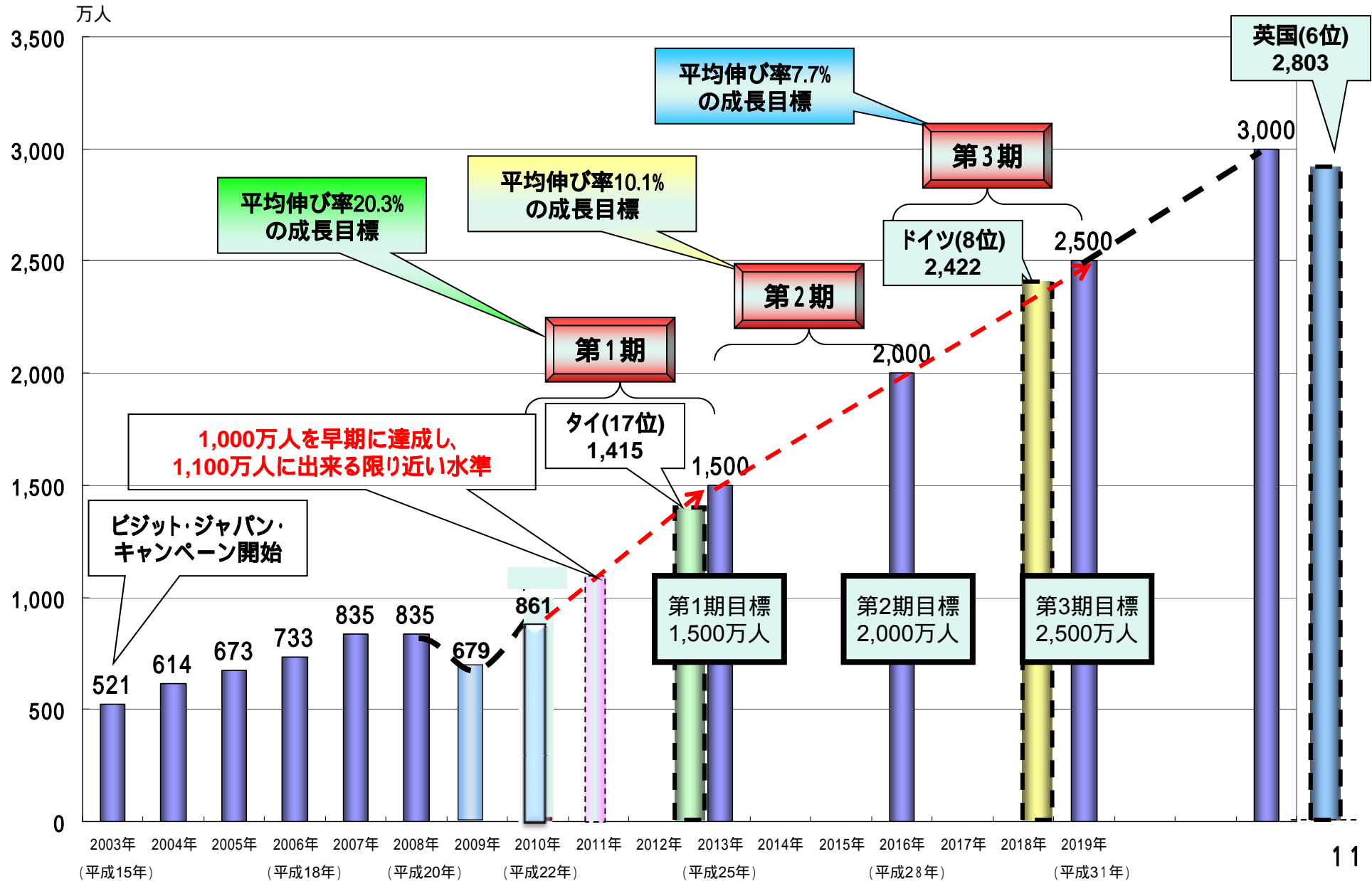


九州へのLCC就航の動き



訪日外国人3,000万人へのロードマップ

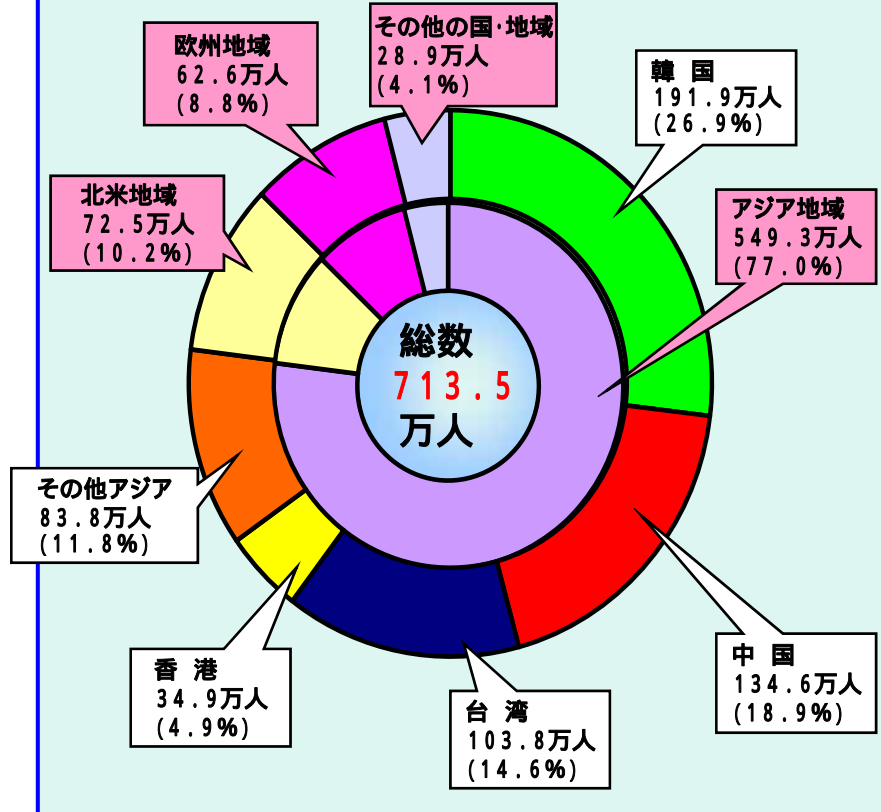
世界経済や為替が安定していること、戦争や疾病の流行が発生しないこと等を前提とする。



全 国

2011年は、前年比 **24.4%減**

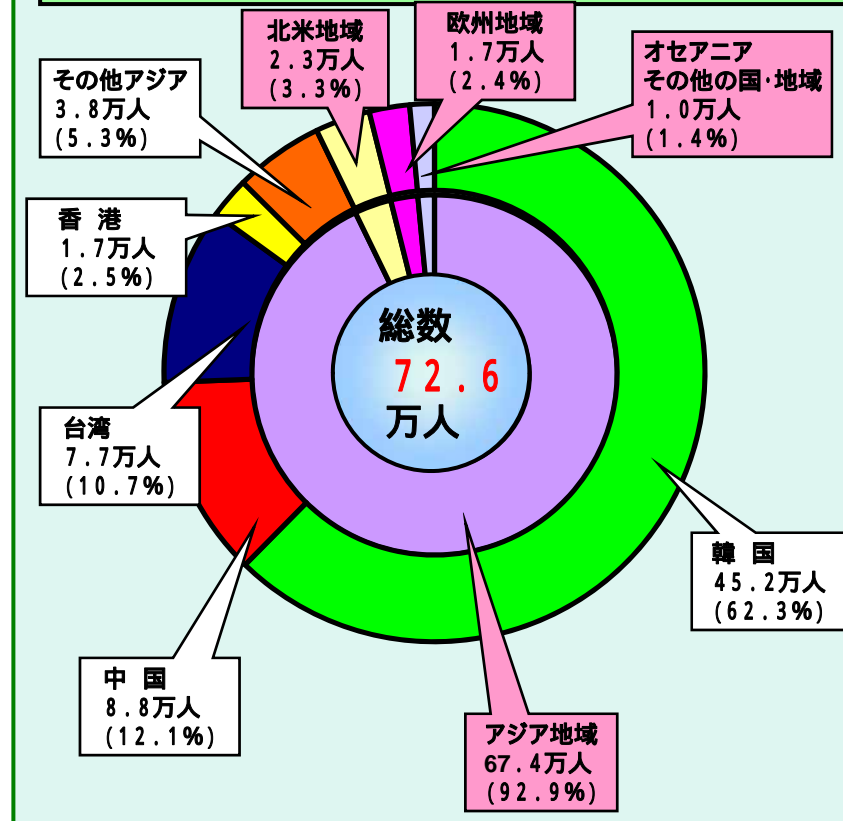
9,443,696人 ⇨ 7,135,407人



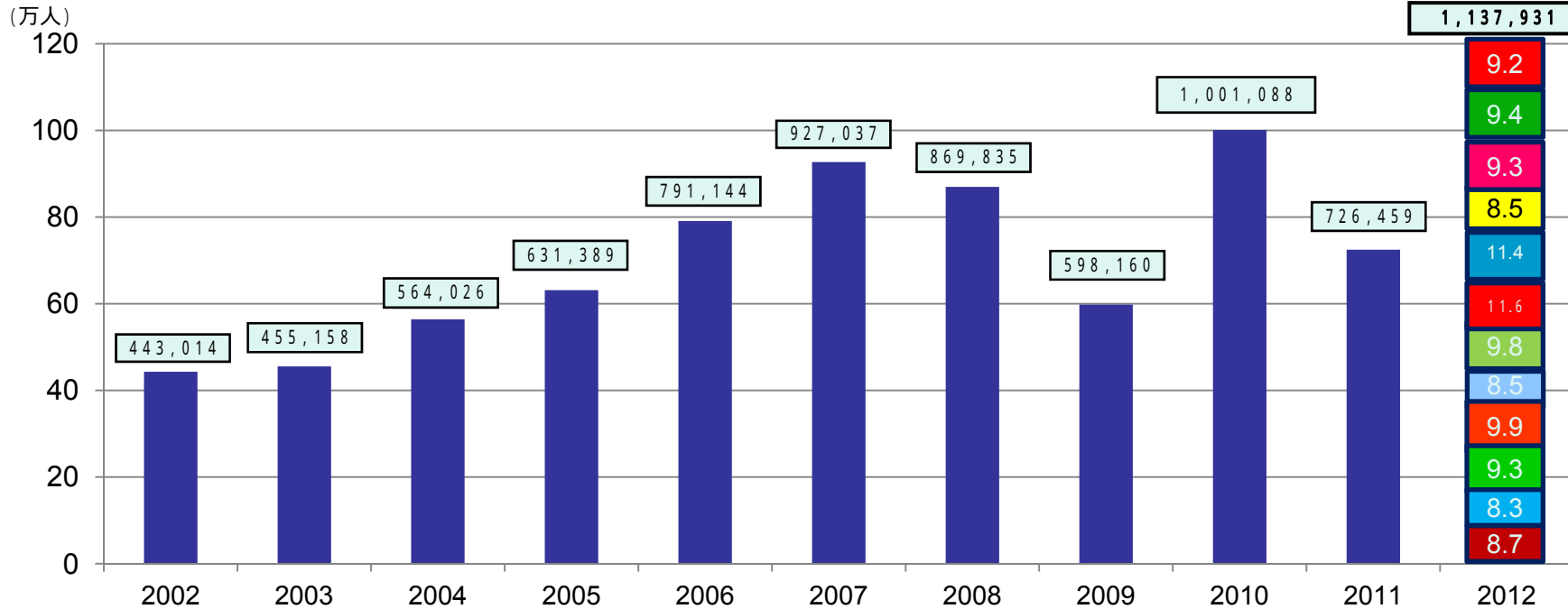
九 州

2011年は、前年比 **27.4%減**

1,001,088人 ⇨ 726,459人



九州の外国人入国者数の推移



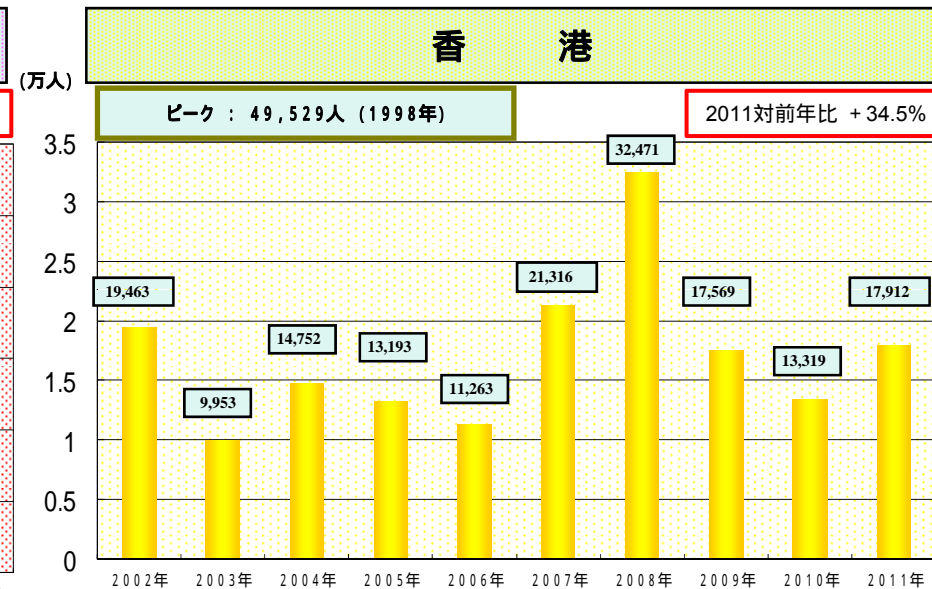
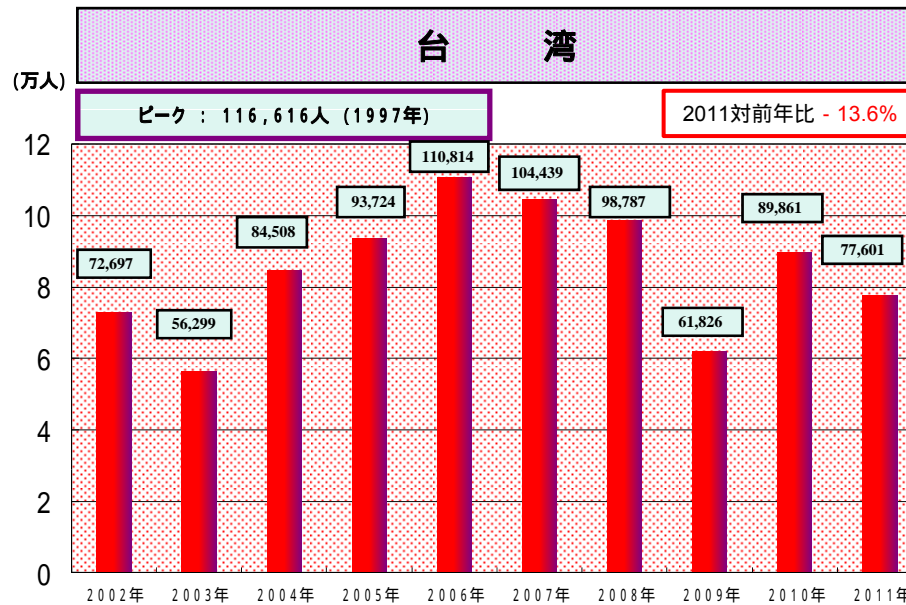
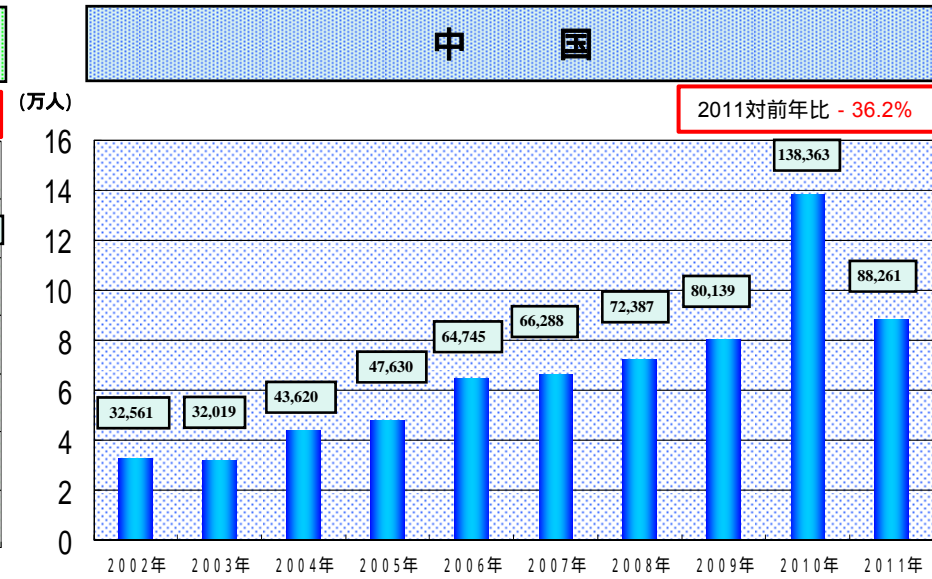
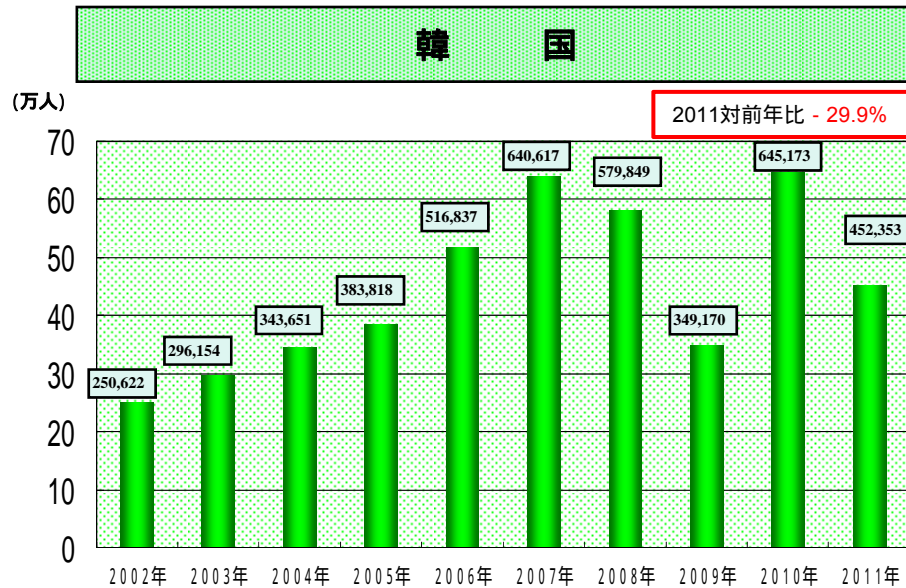
年	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
2007	84,211	73,545	75,158	80,668	71,720	60,175	80,455	86,723	70,139	81,741	82,230	80,272	927,037
2008	94,457	84,064	78,977	87,008	78,333	66,993	78,498	85,676	59,517	72,170	46,441	37,701	869,835
2009	49,288	36,657	50,504	49,879	48,125	30,937	55,987	73,983	45,035	48,906	47,056	61,364	598,160
2010	80,737	75,210	79,757	83,612	78,719	72,596	92,391	105,757	84,227	85,556	84,584	76,146	1,001,088
2011	99,525	80,883	40,769	26,121	35,859	44,300	57,667	71,727	65,197	67,910	69,225	65,428	726,459
対前年比	23.3	7.5	-48.9	-68.8	-54.4	-39.0	-37.6	-32.2	-22.6	-20.6	-18.2	-14.1	-27.4
2012	86,521	82,873	93,388	98,939	85,113	98,045 (14,105)	115,558 (18,763)	113,627 (20,883)	85,030 (14,059)	92,829 (11,670)	94,291 (2,557)	91,717 (0)	1,137,931 (82,037)
対前年比	-13.1	2.5	129.1	278.8	137.4	121.3	100.4	58.4	30.4	36.7	36.2	40.2	56.6
対前々年比	7.2	10.2	17.1	18.3	8.1	35.1	25.1	7.4	1.0	8.5	11.5	20.4	13.7

・2012年の()書きは「寄港地上陸」であって、内数。

・「寄港地上陸」は、出入国管理及び難民認定法第14条の許可による上陸。2012.6より一部大型クルーズ船の上陸許可に適用されているものを計上。

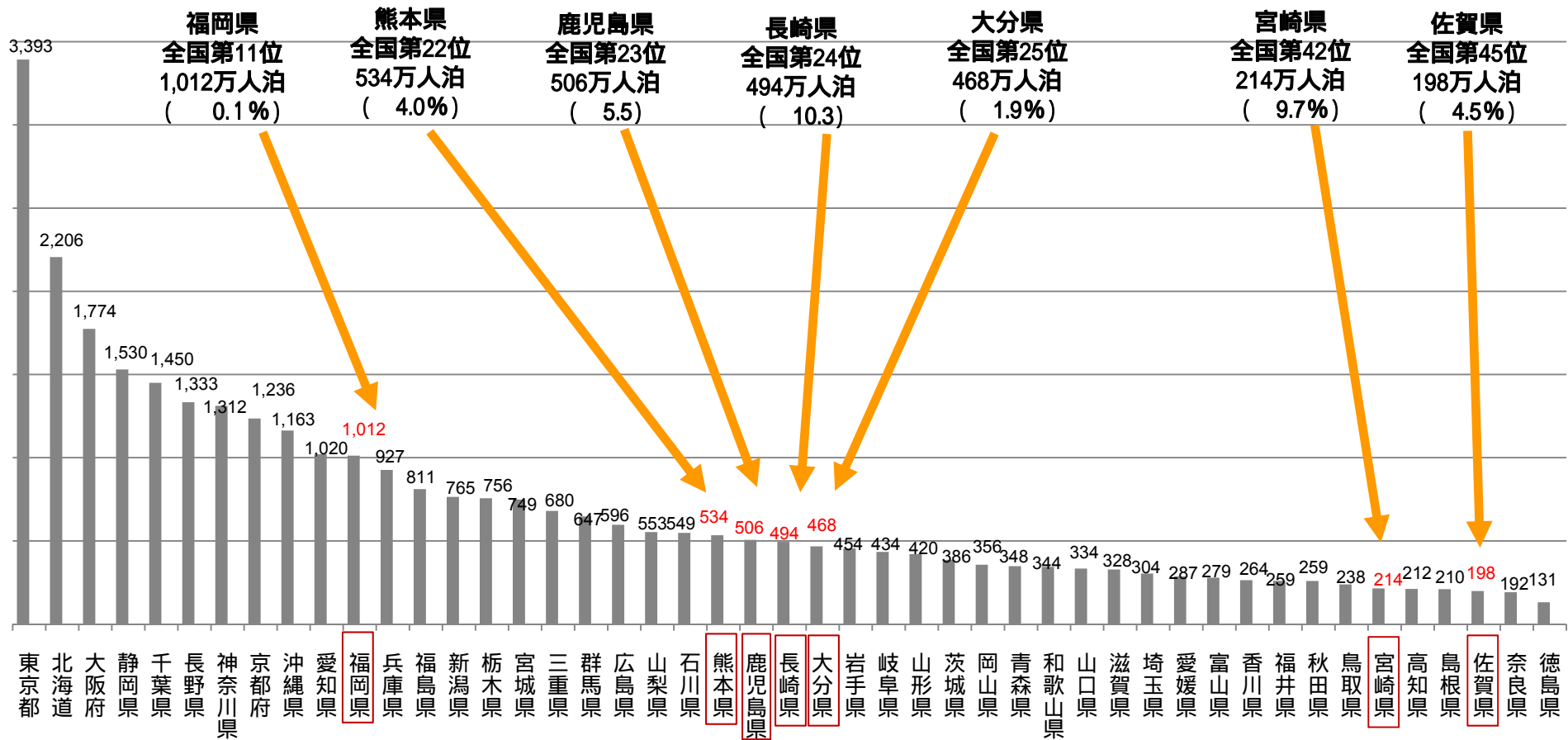
・月報は速報値であり、年報は確定値であることから月ごとの集計と年間の合計は一致しない年もある。

九州の外国人入国者数の推移 (韓国・中国・台湾・香港)



九州における延べ宿泊者数(平成24年4月～12月)

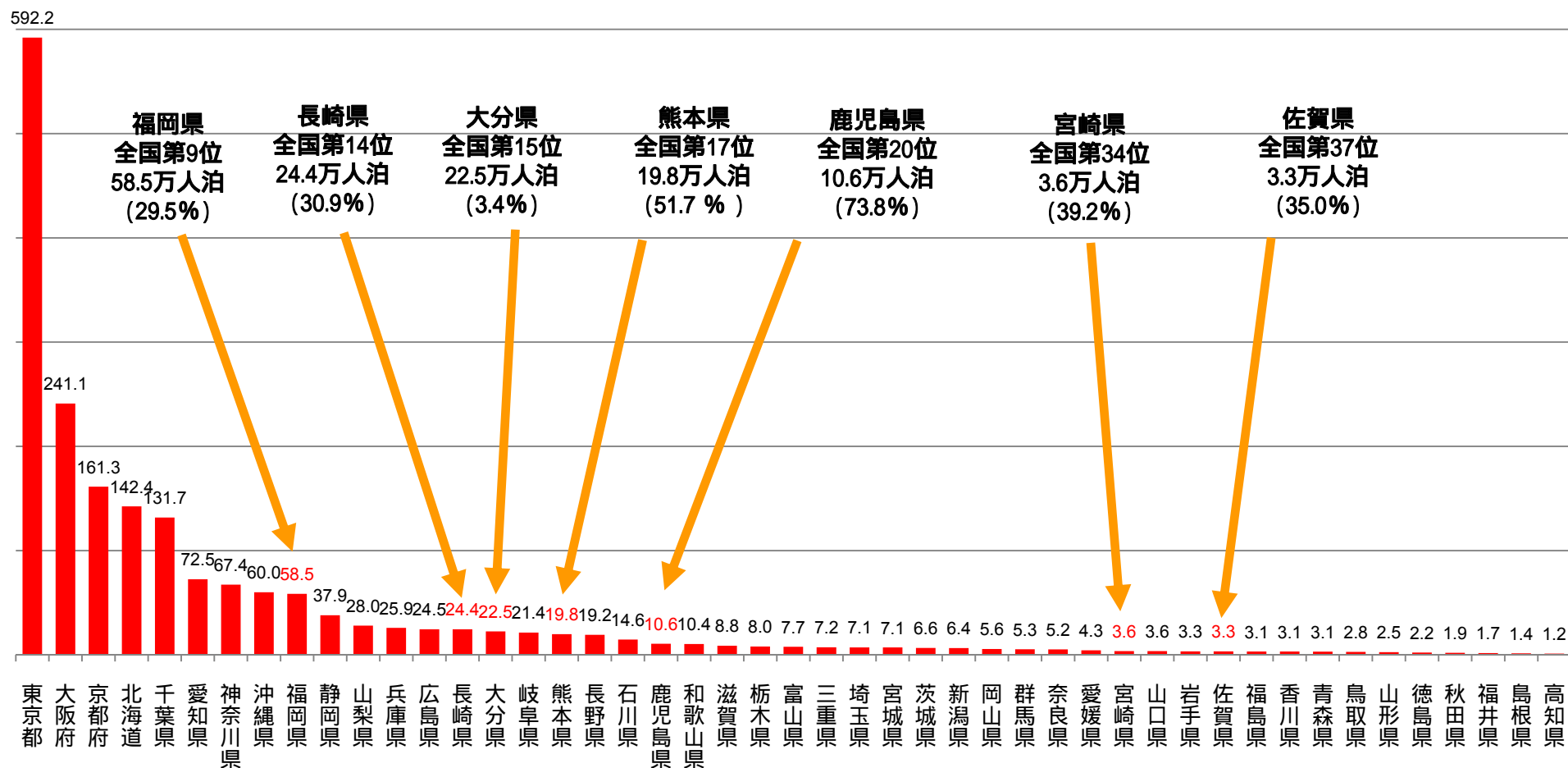
全国延べ宿泊者数 3億2,919万人泊 (対前年比1.3%増)
九州延べ宿泊者数 3,426万人泊 (対前年比4.2%減) (対全国シェア10.4%)



出典: 国土交通省「宿泊旅行統計調査」

九州における外国人延べ宿泊者数(平成24年4月～12月)

全国延べ外国人宿泊者数 1,903万人泊 (対前年比46.2%増)
九州延べ外国人宿泊者数 143万人泊 (対前年比30.1%増) (対全国シェア7.5%)

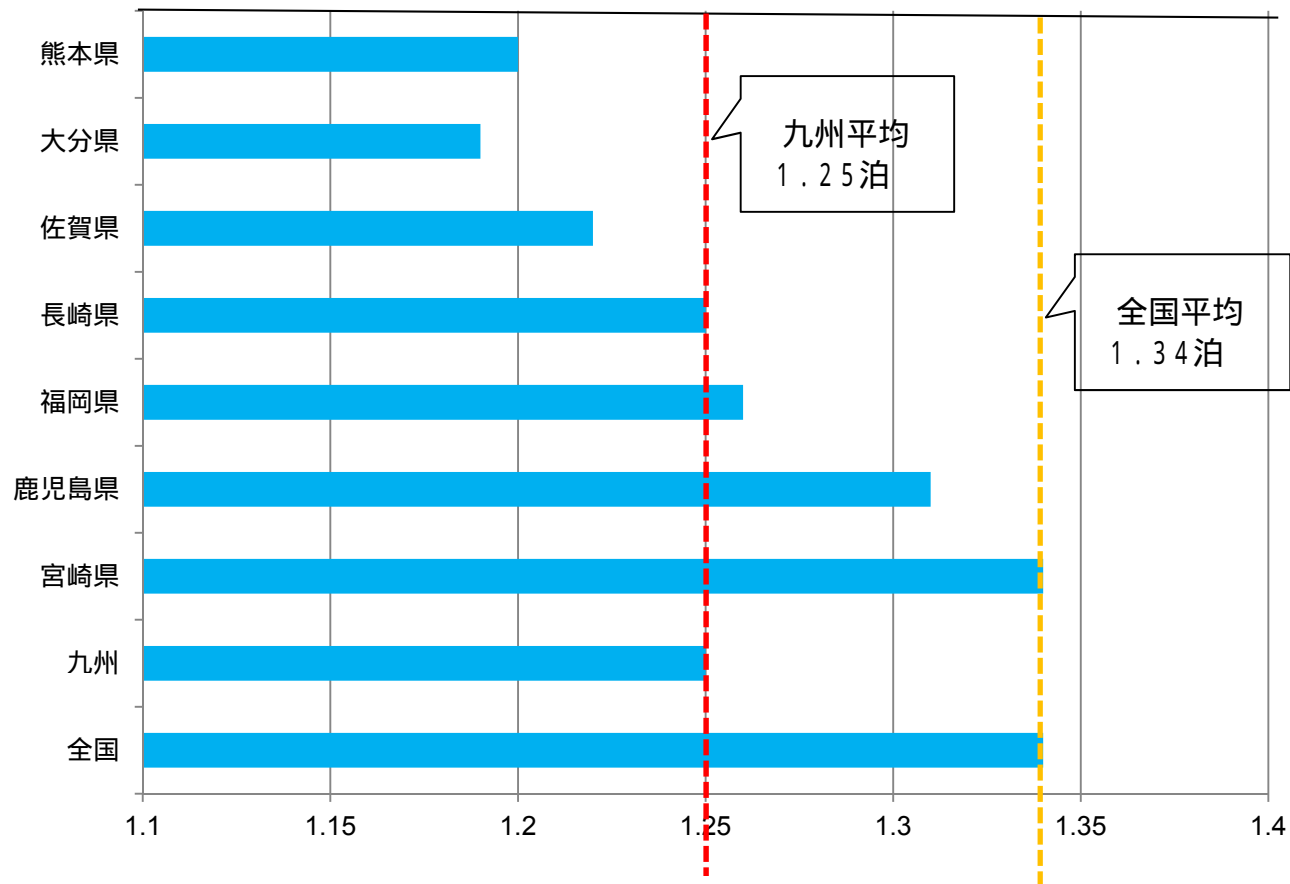


出典:国土交通省「宿泊旅行統計調査」

旅行者一人当たりの平均宿泊数

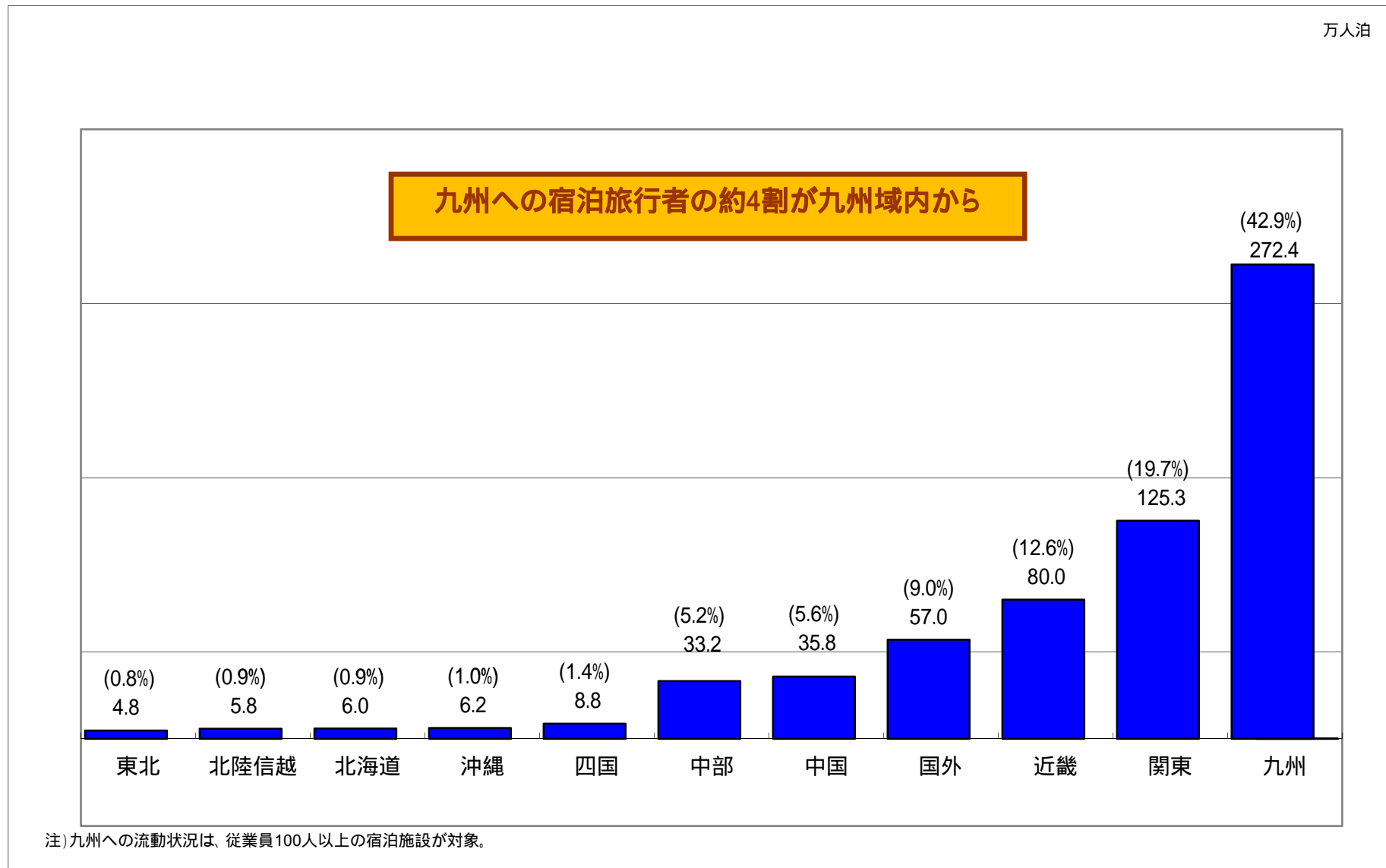
- ・宮崎県が全国平均の1.34泊と同値。その他の九州各県は、全国平均値を下回っている。
- ・長崎県が九州平均1.25泊と同値。平均を上回っているのは、福岡県、鹿児島県、宮崎県。

平均宿泊数(平成23年度)



出典)国土交通省 観光庁「宿泊旅行統計調査」

居住地別延べ宿泊者数(平成23年)



出典)国土交通省 観光庁「宿泊旅行統計調査」

オルレとは

九州オルレは韓国済州島発のトレイル(トレッキング)コースを表します。韓国ではトレッキングの流行に合わせ、済州オルレが大人気となっており、年間約200万人(済州オルレ発表)の方々が済州オルレに参加しています。

九州オルレ事業について

九州運輸局と九州観光推進機構では、ピジットジャパン事業等を通じ、さまざまな視点から海外からの観光客誘客に取り組んでおり、九州への興味を喚起する新たな取り組みとして、近年韓国のトレッキング愛好者の間で非常に人気のある「済州オルレ」に着目し、「そのブランド力」を活用して九州各地の魅力的なトレッキングコースを「九州オルレ」として韓国市場にアピールすることにしました。これらのコースに、宿泊施設や温泉をはじめ九州らしい観光地を組み合わせることにより、視野の広い韓国のトレッキング愛好者にとって、九州が付加価値の高い魅力ある旅行先であるというイメージの定着を目指しています。

九州オルレコースの選定状況

第一次 4コース 2012年2月28日発表

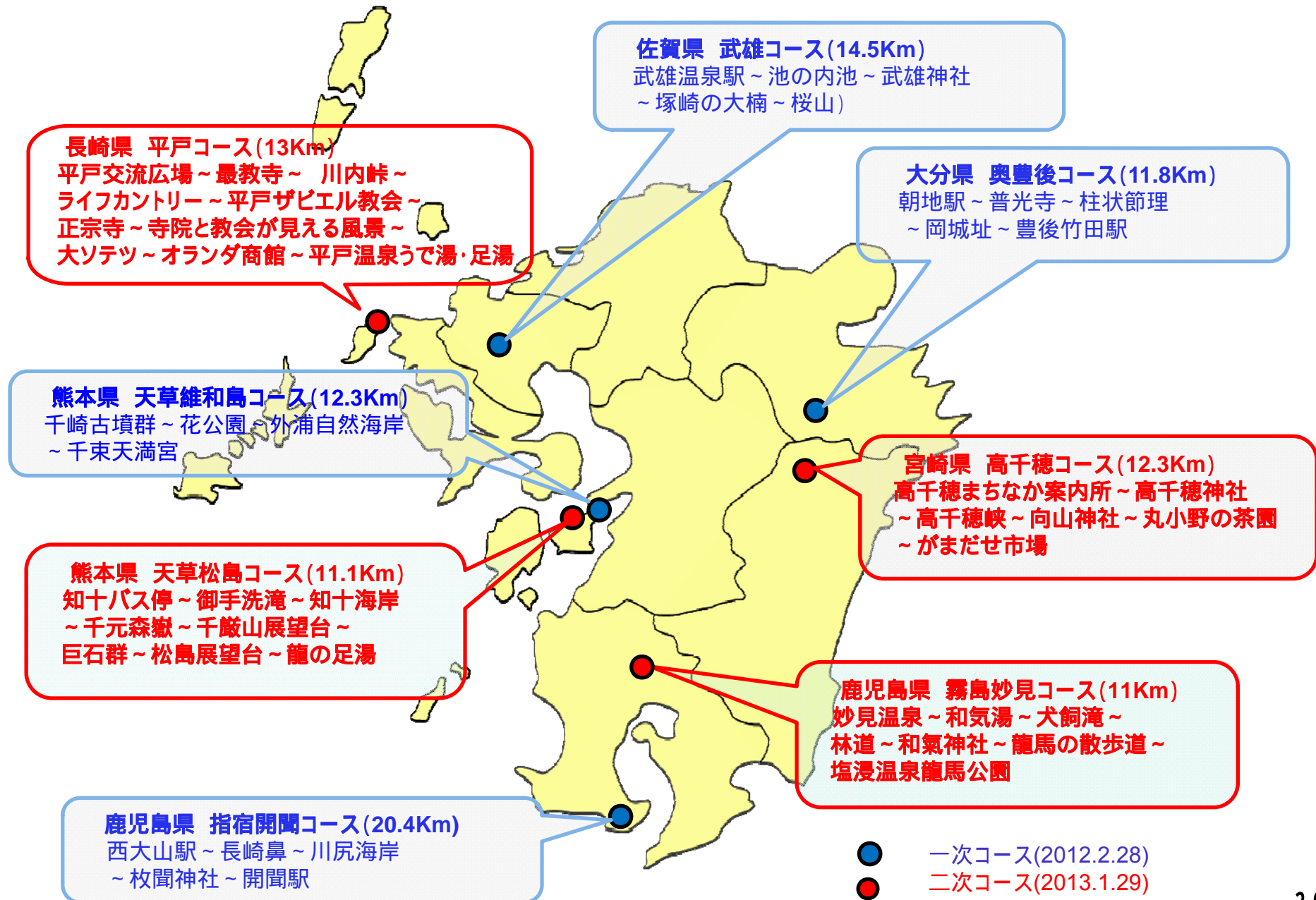
第二次 4コース 2013年1月29日発表

参考 韓国からの九州オルレコース体験者

2012年3月～11月(8ヶ月)の期間合計 4,877人

(韓国旅行社のパッケージ送客実績ヒアリングをもとに推計)

「九州オルレ」コースMAP



九州における観光圏

整備計画の期間: H22.4.1 ~ H27.3.31

整備計画の期間: H22.4.1 ~ H27.3.31

玄界灘観光圏

エリア
長崎県: 壱岐市 / 佐賀県唐津市、玄海町 / 福岡県福岡市、糸島市

観光圏整備事業: H22
PT支援事業(設立準備段階): H23

整備計画の期間:
H21.4.1 ~ H26.3.31

平戸・佐世保・西海ロングスティ観光圏

エリア
長崎県: 平戸市、佐世保市、西海市

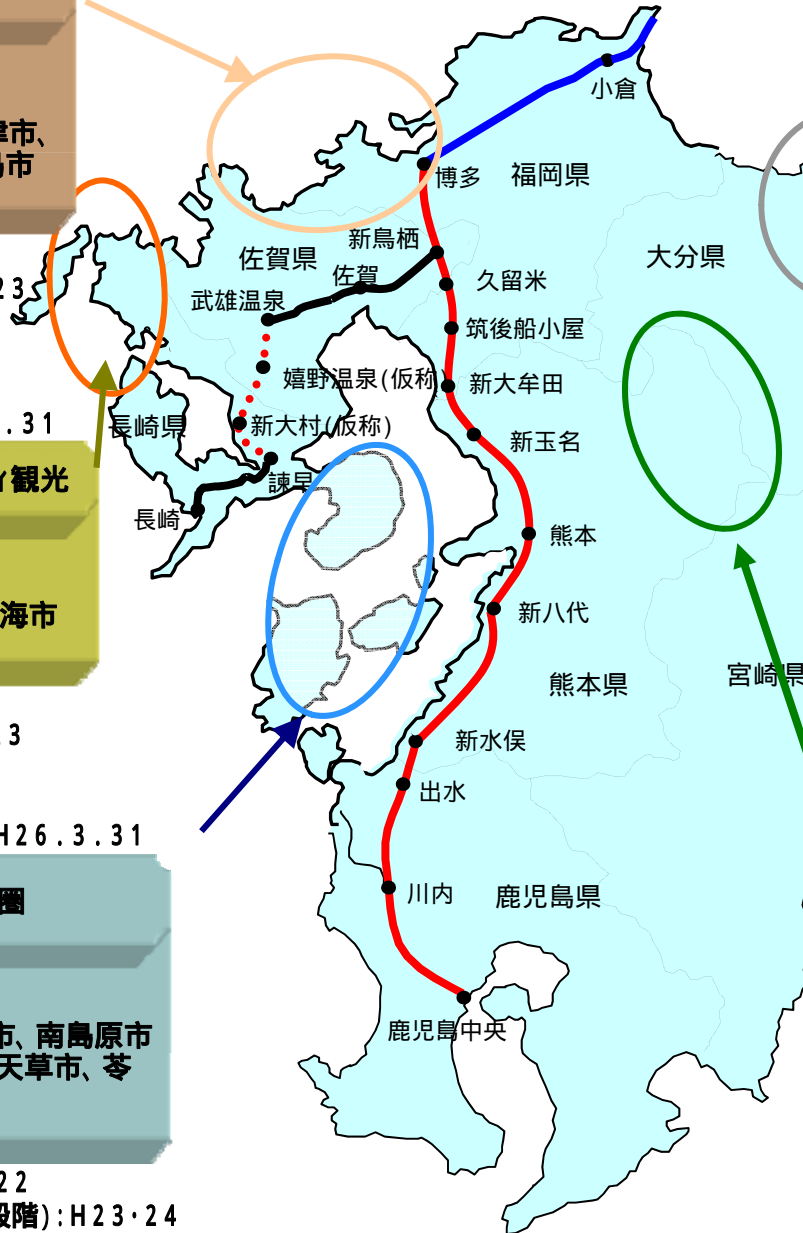
観光圏整備事業: H21・22
PT支援事業(運営初期段階): H23

整備計画の期間: H21.4.1 ~ H26.3.31

雲仙天草観光圏

エリア
長崎県: 島原市、雲仙市、南島原市 / 熊本県: 天草市、上天草市、苓北町

観光圏整備事業: H21・22
PT支援事業(運営初期段階): H23・24



豊の国千年ロマン観光圏

エリア
大分県: 別府市、中津市、豊後高田市、杵築市、宇佐市、国東市、日出町、姫島村

観光圏整備事業: H22
PT支援事業(設立準備段階): H24

整備計画の期間:
H20.10.1 ~ H25.3.31

新東九州観光圏

エリア
大分県: 別府市、由布市、大分市、白杵市、津久見市、佐伯市 / 宮崎県: 延岡市

観光圏整備事業: H20・21・22
PT支援事業(設立準備段階): H23

整備計画の期間: H20.10.1 ~ H25.3.31

阿蘇くじゅう観光圏

エリア
熊本県: 阿蘇市、南小国町、小国町、産山村、高森町、南阿蘇村、西原村、上益城郡山都町 / 大分県: 竹田市 / 宮崎県: 高千穂町

観光圏整備事業: H20・21・22
PT支援事業(運営初期段階): H23・24

阿蘇くじゅう観光圏


～ 風と歩く、光に逢う、彩に酔う 阿蘇くじゅう時遊空間～

観光圏の区域: 熊本県阿蘇市、南小国町、小国町、産山村、高森町、南阿蘇村、西原村、山都町、大分県竹田市、宮崎県高千穂町
 観光圏整備計画の期間: 平成20年10月1日～平成25年3月31日
 数値目標の設定: 観光入込客数(万人) 2,269(19年度)→2,535(24年度) うち外国人(万人) 106(19年度)→142(24年度)
 : 宿泊客数(万人) 270(19年度)→312(24年度) うち外国人(万人) 25(19年度)→39(24年度)

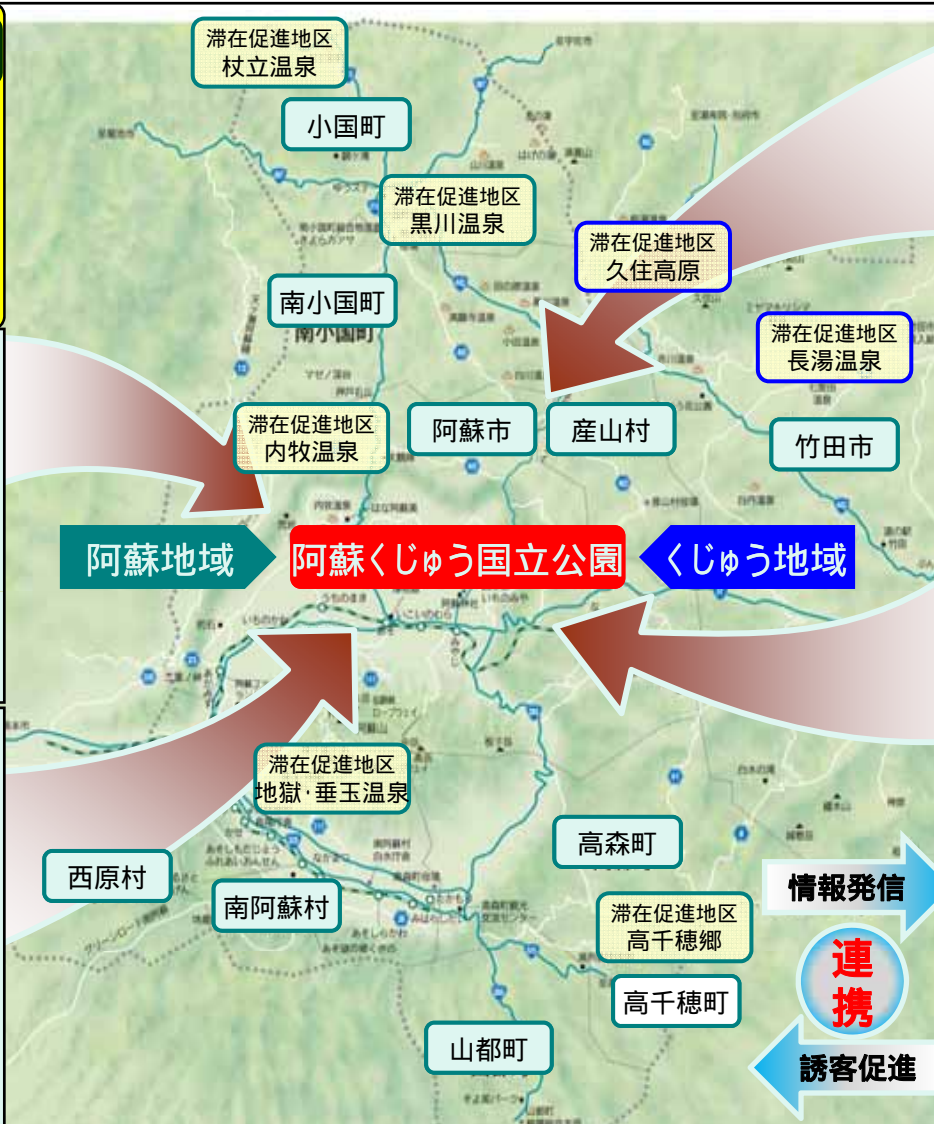
国の支援及び特例内容
 ・観光圏整備事業(H20～H22)
 ・PT支援事業(運営初期段階)(H23～)

阿蘇くじゅう高千穂デザイン会議
 熊本県、大分県、宮崎県、阿蘇市、阿蘇市観光協会、竹田市、NPO法人竹田市観光ツーリズム協会、高千穂町、一般社団法人高千穂町観光協会、福岡市港湾局、JTB九州、JR九州、南阿蘇鉄道、財団法人阿蘇地域振興デザインセンターなど

主な宿泊魅力の向上事業
 ・ウェルカム阿蘇くじゅう&滞在機能強化
 ・阿蘇くじゅう名物料理研究・開発・宣伝



主な観光コンテンツ充実事業
 ・阿蘇ゆるっと博
 ・阿蘇温泉郷イメージ創出


主な交通移動の利便向上事業
 ・阿蘇くじゅう広域連携バス運行実証実験
 ・阿蘇バス共通乗車券&域内フリー切符



主な観光案内・観光情報の提供事業
 ・阿蘇オリジナル通訳システム研究開発
 ・携帯サイト「阿蘇ナビ」観光圏エリア拡大



社会資本整備事業等との連携
 ・博多港における国際交流拠点づくり



博多港

情報発信
連携
 誘客促進

- ・新幹線「まもと創り」
- ・阿蘇駅周辺再開発
- ・歴史的街並み景観